

中国横断自動車道（岡山～米子線）開通を 生かした周辺地域活性化方策調査

(株)山陰経済経営研究所

研究員 長 石 健

はじめに

中国横断自動車道岡山～米子線は、平成元年12月に米子～江府間が供用開始され、鳥取県初の高速道路として、地域の経済・社会に大きな影響を及ぼすことが予想される。

(財)中国地域産業活性化センターでは、同横断道開通を活かして周辺地域の活性化を図るため、「大山・蒜山周辺地域振興計画調査」を平成元年度に実施された。(電源地域振興指導事業の一環として、通産省資源エネルギー庁よりの委託事業である)。

この調査にあたっては、(財)中国地域産業活性化センターが産官学からなる委員会とプロジェクト・チームを組織され、作業を進められたが、当研究所は、蒜山周辺地域の調査を担当された(財)岡山経済研究所とともに調査機関として参加させて頂いた。

ここでは、同調査の報告書を基に、中国横断自動車道岡山～米子線開通を生かした周辺地域の活性化方策について述べてみたい。なお、調査対象地域は、図1の通り山陰・山陽双方に跨がるが、時間の関係上、主に山陰（大山周辺地域）を中心に話しを進めて行きたい。また、大まかな流れを「要約」としてフローチャートに示しているので適宜参照願いたい。

1. 中国横断自動車道岡山～米子線開通の概要

中国横断自動車道岡山～米子線のルート等については図1を参照して頂きたいが、瀬戸内海沿岸地域と日本海沿岸地域を南北に結び、中国山脈によって遮られた山陰側と山陽側の距離的・時間的断層を除くとともに、岡山県真庭郡落合町で、中国縦貫自動車道と連結することにより、山陰・山陽と京阪神、四国、九州との交流を促進し、産業経済発展の基礎となることが期待される幹線道路である。

2. 中国横断自動車道岡山～米子線開通の影響と効果

では、同線の開通により、具体的にどのような効果・影響が予想されるのか、以下、先進地の事例を参考に予想される影響と効果について、プラス面、マイナス面両方から

考えてみる。

(1) プラス面

①広域的な生活圏・経済圏の形成

鳥取県西部圏域と岡山圏真庭圏域は従来隣接していたにも係わらず、生活圏・経済圏としての親近感の一部の地域を除き、必ずしも深いものではなかった。しかし、今後は中国横断道によって結ばれ、特に観光・リゾート面で密接な関係が生じることが予想される。

②行動圏の拡大・他地域との交流促進

山陰・山陽間、京阪神等との時間距離が短縮され、行動圏が拡大し、ヒト、モノ、情報の交流が促進される。例えば、輸送時間短縮による仕入れ・販売チャンスの拡大、買い物、医療、通勤、出張、レジャーなど、生活・ビジネス行動圏が拡大する。

③諸産業活動の活発化

例えば、農林水産業における生鮮品出荷圏の拡大、観光農園、産地宅配便など新しいビジネスの可能性、製造業における企業立地の促進、公共投資・民間投資の増大による建設需要の拡大、小売業商圏の拡大など諸産業活動の活発化が予想される。

実際に、中国横断道の開通を睨んで、平成元年度には鳥取県西部圏域に過去最高の14社の企業進出が決定した。また、中国横断・縦貫両道が交差する久世地区に岡山県北流通団地の建設が予定されるなど、各方面で胎動が始まっている。

④観光・リゾート資源の開発と圏外客流入の増大

当地域は、大山・蒜山、近隣の弓ヶ浜を中心とするマリン・ゾーン、湯原・皆生の両温泉など、「海・山・温泉」をセットで楽しめるバラエティに富んだ観光・リゾート資源を有している。

こうした、多彩な観光・リゾート資源を利用して開発を進め、それらを有機的にネットワーク化することができれば、岡山県南部、四国、京阪神、九州などへの集客圏の拡大、入り込み客の増加が期待できる。

実際に、大山・境港周辺地域が鳥取県のリゾート構想の特定地域に指定され、岡山県のリゾート開発構想も、真庭地方を中心とする岡山県北が特定地域に指定されており、諸々の開発プロジェクトが進行中である。

(2) マイナス面

中国横断自動車道岡山～米子線開通の効果は必ずしもプラス面ばかりでなく、マイナス面もいくつか指摘される。

①人手不足の深刻化・人口流出

鳥取県でも人手不足が既に大きな問題となっているが、誘致企業の増加などによって、人手不足が一段と深刻化し、地場企業からの労働力引き抜きなどが激化することも予想

される。また、京阪神等との時間距離短縮は若者の県外志向に一層拍車を掛けることも懸念される。

②地元購買力の流出・商圏の縮小

京阪神・瀬戸内地方との時間距離短縮は、購買行動の広域化を促し、地元購買力の流出をもたらす懸念がある。東北縦貫道等の先例によれば、若年層がレジャーを兼ねて、ファッション系統の衣類・身回り品等を求め、県外大都市にでかける傾向が強い。

また、卸売業については、岡山県側と鳥取県側ではかなり影響が異なってくると思われる。先述したように久世地区には県北流通団地の建設が予定され、卸売業者、運輸・倉庫業者等が進出を検討している。これらの進出企業は主に県外大手とみられるが、岡山県真庭地方にはそれなりのメリットをもたらすであろう。

それに反して、米子市を中心とする鳥取県西部の地元卸売業者は、県外大手卸売業者との競合激化等により、厳しい対応を迫られると予想される。

③単なる通過点となる恐れ

中国縦貫道の開通は、京阪神と四国・九州を連携させ、インターチェンジ周辺の企業進出を活発化させるなど多大のメリットがあったが、その反面、中国地域が京阪神と九州を結ぶ単なる通過点となってしまっている側面も見逃せない。

中国横断道がその轍を踏まないためには、単なる人・車・モノの通過点とならず、当地域に果実を落とさせるような仕掛けづくり、人を集める「拠点づくり」が是非とも必要である。

この外にも、多くの影響が考えられ、また、鳥取県側と岡山県側では、その特性が異なるため、中国横断自動車道開通の影響と効果も必ずしも一致しない部分もある。そこで鳥取県側を中心として、中国横断自動車道開通によりどのような影響と効果が予想されるのか、より具体的なものを表1、2に纏めておいたので参照願いたい。

3. 横断道周辺地域で進行中の活性化戦略

中国横断自動車道岡山～米子線の開通により、これまで述べたようなプラス面、マイナス面の様々な影響が予想される。では、同線の開通を前にして周辺地域ではどのような活性化戦略が考えられているのであろうか。

詳細な説明は省略するが、大山周辺地域を含む鳥取県西部圏域は、豊富な観光・リゾート資源を活かして、リゾート開発を今後の地域の活性化の大きな柱としている市町村が多い。実際に鳥取県西部圏域は県の「ふるさと大山ふれあいリゾート構想」の特定地域に指定されていることは先述した通りである。

一方、岡山県側にあっても、豊富な観光・リゾート資源を活かし、多くの町村が観光・リゾート開発に取り組んでいる。また、リゾート法に基づく県のリゾート開発構想も真庭地方を中心とする岡山県北で調査が進められ、既に基礎調査が国土庁に提出されてい

る。このように、鳥取県側、岡山県側ともに観光・リゾート開発が今後の地域活性化の大きな柱として位置づけられている。

4. 横断道周辺地域における活性化の方向

これまで、横断道開通により予想される影響と効果、そして周辺地域において現在進行中の活性化戦略を見てきた。それでは、横断道開通のデメリットを極力縮小し、メリット部分を拡大するためには何をなすべきか考えていきたい。

その際、大山・蒜山周辺地域でも地区によって、その利害が全て一致しているわけではない。従って、先述した卸売業のように、利害が一致しない分野については詳しい検討の対象から除き、両地域に共通の利益があり、共同で実施できる事項を中心に検討を加えていきたい。また、既に各市町村で構想・計画中の開発プロジェクトについては、各市町村の自主性を尊重し、深く踏み込まないこととする。

(1) 活性化を図る上での基本的考え方

大山・蒜山周辺地域の各地区とも、中国横断道の開通をキッカケとして観光・リゾート開発を大きな柱とした地域活性化を志向している。両地域ともリゾート法に基づく県のリゾート開発の特定地域に指定されていることは先述した通りである。

また、大山・蒜山周辺地域は、大山近隣の境港を中心とするマリンゾーンを含めて「海・山・温泉」がセットで楽しめる多彩な観光・リゾート資源を有しており、横断道開通の効果が最も期待できる分野の一つである。

以上の点を考慮し、次の2つの点に重点を置いて大山・蒜山周辺地域活性化の方策を提言していきたい。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①各市町村バラバラでなく、当地域が一体となった観光・リゾート圏を形成し、集客を強化すること。②単なる通過地に終わらせることなく、ヒト、車、モノを当地域に呼び込み、滞留させるための「マグネット機能」を強化すること。 |
|---|

(2) 活性化のための具体的方策

このような考え方に基づき、観光・リゾート開発を絡めた地域の活性化を図るため、具体的な方策を4点提言したい。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">①地域イメージ・地域ブランドの確立②「大山・蒜山周辺地域観光・リゾート開発・推進協会」(仮称)の設立③周辺地域のゾーニングの明確化④人を集める「拠点」(マグネット)づくり |
|--|

①地域イメージ・地域ブランドの確立

他の観光・リゾート地との差別化を図るためには、大山・蒜山周辺地域の各地区がそれぞれの特性を活かして、多彩な観光・リゾートメニューを提供していくとともに、大山・蒜山周辺地域全体の地域イメージ・地域ブランドをソフト面からも確立し、全国にPRしていく必要がある。その際には、個々の市町村だけでは「情報発信力」の点で限界があることから広域的な取り組みが必要である。

ソフト面からの地域ブランド確立のための基本的方策としては、以下のようなものが考えられる。

- 大山周辺地域・蒜山周辺地域を一体化した地域CIの策定（ネーミング、シンボルマーク、ロゴ等）

- 情報提供機能の強化

- 広域的イベントの実施

- 地域グッズの開発など

②「大山・蒜山周辺地域観光・リゾート開発・推進協会」（仮称）の設立

①で述べたような、ソフト面からの地域ブランド確立のための機能を担う広域的な組織づくりが必要になってくる。

そこで、大山周辺地域、蒜山周辺地域双方の行政、観光協会、関係団体から構成される広域的な組織づくりを提言したい。基本的な活動としては、①で述べた事項に加え、交通ネットワークの充実、「友の会」の組織化などが考えられる。具体的な組織、活動内容等については省略する。

③周辺地域のゾーニングの明確化

各地区の特性を活かしたゾーニングを行い、各ゾーンのもつ歴史的・文化的資源や自然資源、既存の施設等をフルに活用し、多彩な観光・リゾートメニューを提供し、相互に連携・補完することで相乗効果を発揮し、総合的な魅力づくりを進めていく必要がある。そこで、報告書では既存の諸資源や進行中の開発計画を勘案し、7つのゾーンに区分を行い、各ゾーンごとに基本的な開発の方向を提言したが、ここでは詳細は省略する。

④人を集める「拠点」（マグネット）づくり

大山・蒜山周辺地域が一体的な観光・リゾート圏として、域外から多くの人を集めるためには、各ゾーンが地域の特性を活かして多彩な観光・リゾートメニューを提供していくとともに、域外から人の流れを受け止める「拠点」を山陰・山陽双方につくり、しかる後に周辺地域に送り出す仕掛けをつくることで、集客力の強化、域内回遊性を強化する必要がある。

山陰にあっては、中国横断道の終着点であり、大山周辺の山岳・高原リゾートと弓カ浜を中心とするマリン・リゾートの結節点に位置し、一定の都市機能の集積をもった米子市が、域外から人・モノ・情報を集めるマグネットの機能を果たすことが期待される。

一方、山陽側では、中国縦貫道から横断道に入る際の重要拠点で、インターチェンジ

に隣接している湯原町が、大山・蒜山周辺地域全体への人の流れを受け止め、交通体系、観光・リゾート情報の提供、宿泊・リゾート機能の面で、もう一方の核となることが期待される。

米子市、湯原町がこうした役割を果たすため、次の2つの開発方向を提言したい。

米子市	— 周辺のリゾート地域の「核」として「人を中心に、モノ、情報を集める」コンベンション都市づくり
湯原町	— 「リラクゼーション・ヘルス・リゾート」を基本コンセプトとし、大規模クア・センター施設を中核とするクア・リゾート化

5. 米子市のコンベンション都市づくり

人を集める「拠点」として米子市のコンベンション都市づくり、湯原町のクアリゾート化を提言した。時間の関係上、湯原町のクアリゾート化については詳細を省略させて頂き、米子市のコンベンション都市づくりについて、その狙い、活用すべき特性、コンベンション都市づくりの基本戦略等について述べていきたい。

(1) コンベンション都市づくりの狙い

米子市のコンベンション都市づくりの狙い・目的は次の5点である。

①周辺地域も含めた地域全体の「情報発信力」の強化

②周辺リゾート地域との連携

域外からの来訪者をまず米子市で受け止め、その後でアフターコンベンションや宿泊機能の補完等を通じて周辺の山岳・高原リゾート地やマリンリゾート地に送り出すことで、相乗効果、補完効果を発揮する。

③都市機能の強化

コンベンション都市づくりを進めていくことにより、(大山周辺地域を含む)鳥取県西部圏域の中核都市である米子市の都市機能を強化する。(例えばアメニティ性の向上、情報交流の場の形成、産業支援機能の強化など)

④新たな産業起こし

人、モノ、情報の交流をインセンティブとした新たな産業起こしが期待できる。

⑤コンベンションから生じる波及効果

コンベンション参加者の直接消費効果、生産誘発効果、雇用効果など

米子市周辺のリゾート地域との関わりにおいては、特に①と②のと効果が重要で、米子市のコンベンション都市づくりと周辺のリゾート開発を一体化して進めていくことは、双方にとって大きなメリットが生じると思われる。

なお、コンベンションというと、東京、幕張(メッセ)、横浜といった大都市、又は

その周辺でないと成立しないのではないかという疑問もあると思う。しかし、地方都市でも、例えば金沢などのように、地域の特性を活かしたコンベンション都市づくりに取り組み、成果をあげているところは幾つかある。また、大都市圏でコンベンションを行うには、交通、宿泊などコンベンションを支える都市機能が限界に達しつつある面もあり、地方都市でのコンベンションに対するニーズは今後増加してくると思う。

(2) 米子市のコンベンション都市としてのポテンシャル

先に述べたような狙いで米子市のコンベンション都市づくりを提言したわけだが、それは米子市がコンベンション都市として次のようなポテンシャルを持っているからである。

①交通の要衝性

中国横断道の開通、米子空港、JR 伯備線など

②宿泊施設の（量的）充実

年間入場者130万人の皆生温泉を有し、宿泊施設は量的にはかなりの集積がある。

③鳥大医学部を中心とする医療研究機関・医療事業所の集積

鳥大医学部、医療短大等の医療研究機関が集積し、医療事業所も県内随一の集積がみられ、米子市は医学会関連のコンベンションが多く開催される基盤がある。

④豊かな観光・リゾート資源

⑤情報ネットワーク形成進展の可能性

コンベンション都市には情報ネットワークの形成が不可欠だが、米子市を含む鳥取県西部圏域は通産省のニューメディア・コミュニティ構想の指定を受けている外、CATVの開局等情報基盤の整備も進展しつつある。

⑥第3次産業の集積

「山陰の商都」と呼ばれるように、米子市の第3次産業就業者の構成比率は66.5%と、全国平均の57.5%を大幅に上回り、産業のソフト化、サービス化が進んでいる。コンベンションをサポートする関連産業の育成には良い環境にある。

(3) 米子市の目指すコンベンション都市

それでは米子市はどのようなコンベンション都市を目指すべきであろうか。コンベンション都市の類型としては、一般的にいて、①コンgres & ミーティング型、②ツーリズム型、③メッセ型、④イベント型の4つのタイプがある。

詳しい説明は省略するが、米子市にふさわしいのは②のツーリズム型と思われる。即ち、「海・山・温泉」をセットで楽しめ、さらに歴史・文化資源に富む松江・出雲にも近いという特性を活かして、「リゾートの中のコンベンション・シティ」を目指す方向である。

(4) コンベンション都市づくりの基本戦略

しかし、一方で、米子市のコンベンション都市づくりを進めていく上で幾つかの問題点や課題も存在する。以下、問題点・課題を列挙すると、

○コンベンション施設の不足

・中核となるコンベンション施設の不足

○宿泊施設が質的に充分でない（高グレードの宿泊施設の不足）

・皆生温泉があり量的には一応充足しているが、質的にはバラツキがある。今後、都市型ホテルの充実、温泉宿泊施設のワンルーム志向への対応等が必要となろう。

○交通基盤の未整備

・特に米子空港の機能向上が課題となる。

○全国的な知名度の不足

○都市のアメニティの向上

○コンベンション推進体制の整備……などが挙げられる。

こうした問題点・課題を踏まえて、米子市のコンベンション都市づくりを進めていくために、次の6つの基本戦略を提言したい。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①コンベンション都市づくりの前提としての市民のコンセンサス形成②地域特性を活かしたコンベンションの企画と誘致③コンベンション関連施設の整備・拡充④コンベンション推進機構の設立⑤都市ぐるみの支援方策の展開⑥コンベンションを支える都市基盤の整備 |
|---|

詳細については、図2を参照願いたい、②と③について若干補足したい。

②については、コンベンション都市としての個性を打ち出すことである。例えば、ここ広島でも積極的なコンベンションの誘致・企画を進めておられるが、「平和」を大きなテーマとしたコンベンションの系統化を図っておられるように見受けられる。

そうした地域の特性を活かしたコンベンションのテーマを打ち出し、他のコンベンション都市との差別化を図っていく必要があるということである。

米子市では、先述した医療機関の集積、周辺のリゾート地の開発コンセプトである「健康・リフレッシュ」、食品産業の集積（バイオテクノロジーの潜在的資源・萌芽）などを活かして、「健康・医療・保養・福祉」をテーマとしたコンベンションの誘致・企画を図っていくような方向が考えられる。

③については、現在米子市には中核となるコンベンション施設が残念ながら、幸い、県の第5次総合計画には、「経済文化会館（仮称）」の建設調査を行うことが盛り込まれている。現在、第6次総合計画が策定中で、この「経済文化会館（仮称）」がどういう位置づけをされるか未だ分からないが、リゾートとコンベンションを一体化した開発には大きな効果が見込まれるだけに、コンベンションの中核施設としての位置づけ

に立って、同会館の建設促進が望まれる。地元でも「コンベンションの中核施設としての位置づけ」という考え方が、浸透しつつある。

(5) まとめ

以上、米子市のコンベンション都市づくりについて述べてきた。その狙いとするところは、大別して次の2点である。

①リゾートとコンベンションを一体化した総合的開発を進めることにより、当地域の「情報発信力」強化、集客力の向上、域内回遊性の向上などを通じ、相乗効果・補完効果を発揮していく。

②コンベンション都市づくりを進めていくことで、大山周辺地域を含む鳥取県西部圏域の中核である米子市の都市機能を強化する。

①についてはこれまで述べてきた通りである。②について補足すると、鳥取県西部圏域の抱える最大の問題点は「若年層の流出」である。若年層の流出は鳥取県全体の問題ではあるが、特に西部圏域は、人口規模がほぼ等しい東部圏域に比較しても、その傾向が強い（図3参照）。また、住民アンケートでも鳥取県西部圏域の最大の問題点は「若年層の流出」と捉えられている（図4参照）。

鳥取県西部圏域は実態的に、米子市を中心とする一体的な経済圏・生活圏を形成している。米子市の都市機能を強化することは若者の域外流出を防止する上からも重大な課題である。その際、コンベンション都市づくりが有力な方法になるのではないかと思う。

コンベンション都市づくりにより、教育・文化機能や娯楽機能、産業支援機能の向上も期待できようし、コンベンションを支える都市基盤の整備により、交通体系や情報ネットワーク、都市のアメニティの向上など基礎的な都市機能の向上を図ることができる。また、都市のイメージアップや住民の意識高揚など、無形の効果も大きいのではないかと思う。実際に住民意識アンケートでみても、鳥取県西部圏域の住民は圏域の中核都市米子市に対し、「コンベンション都市」「教育・文化の都市」としての機能を筆頭に多様な都市機能を期待している。（図5参照）

米子市のコンベンション都市づくりは、周辺のリゾート地との連携・相互補完という狙いに止まらず、鳥取県西部圏域の中核都市である米子市の都市機能強化という狙いもあることを付言して、まとめとしたい。

中国横断自動車道 (岡山～米子線) 開通を生かした周辺地域活性化 プロジェクト実現化方策調査 (要約)

中国横断自動車道開通の影響と効果	
プラス効果	
①広域的な生活圏・経済圏の形成 鳥取県西部圏域と岡山県東部圏域との交流促進 (特に観光・リゾート面)	①人手不足の激化・人口流出 ・誘致企業の増加による労働需給の逼迫 ・若者の県外志向に拍車 等
②行動圏の拡大 山陰～山陽間、京阪神地方等との時間距離の短縮による行動圏の拡大、ヒート・モノ・情報の交流促進 (生活・ビジネス行動圏の拡大)	②地元購買力の流出・県外乗客との競合 ・購買行動の広域化による地元購買力の流出 ・県外大手卸売業者の進出による競合激化 等
③産業活動の活性化 ○農林漁業 高原野菜等地の利を生かした品目の出荷量拡大・産地化の進展 等 ○製造業 ・工場立地の促進 (特に加工組立型) ・地域資源活用型業種の振興 等 ○商業 ・流通拠点の形成 等 (岡山県北流通団地など) ④観光・リゾート資源の開発と圏外客流入の増大 ・「海・山・温泉」とバラエティに富んだ観光・リゾート資源の開発・ネットワーク化により、岡山県南部、四国・京阪神・九州地方等への集客圏の拡大・入り込み増加が期待できる 等	③単なる通過点となる恐れ。 等

地域活性化を図る上での基本的考え方
①大山・蒜山周辺地域が一体となった観光・リゾート圏を形成し、集客力を強化する
②単なる通過地域に終わらせることなく、ヒト、車、モノ、カネを大山・蒜山周辺地域に呼び込み、滞留させるための「マグネット機能」を強化する

調査対象地域で進捗中の活性化の基本的方向
観光・リゾートを柱とした地域活性化 ・鳥取県西部圏域は「ふるさと大山ふれあいリゾート構想」の重点整備地域 ・岡山県側でも真庭地方を中心とする岡山県北部で基礎調査が進行中 ・「海・山・温泉」と全国でもあまり例をみないバラエティに富んだ観光・リゾート資源に恵まれ、中国横断自動車道開通の最も大きな効果が期待できる分野

地域活性化の方策
①地域イメージ・地域ブランドの確立 他の観光・リゾート地との差別化を図るため、ソフト面からも地域イメージ、地域ブランドを確立する。 ○大山・蒜山間地域を一体化した地域CIの確立 ○情報提供機能の強化 ○広域的イベントの実施 ○地域グッズの開発 等 ②「大山・蒜山間地域観光・リゾート開発推進協議会 (仮称)」の設立 ソフト面からの地域ブランド形成をサポートするため、大山・蒜山間周辺地域の行政、観光協会、関係団体からなる広域的な組織づくり ③周辺地域のゾーニングの明確化 各地区の特性を生かしたゾーニングを行い、各ゾーンのもつ歴史・文化資源を自然資源、既存の施設等をフルに活用し、多様な観光・リゾートメニューを提供し相互に補完・連携することで、相乗効果を発揮する。 ④人を集める「拠点」(マグネット機能)づくり 域外から人の流れを受け止める「拠点」を山陰・山陽双方につくり、しかる後に周辺地域に送り出す仕掛けをつくることで、集客力の強化、域内回遊性を高める。 ○山陰側 米子市一帯周辺のリゾート地域の「核」として、「人を中心にモノ、情報を集める」コンベンション都市づくり ○山陽側 湯原町一帯「リラクゼーション・ヘルス・リゾート」を基本コンセプトとし、大規模クアセーターを中核とするクアリゾート化

周辺地域のゾーニング

潮風と砂と湯の路	松原と砂浜からなる長大な海岸線や日本海、温泉などの資源を生かし、温泉型保養地を包含したマリリン・スポーツ・レジャーゾーンとして整備する。
人の集うコンベンション・シティ	大山周辺の山岳リゾートと境港を中心とするマリリン・リゾート・ゾーンの結節点としての地理的特性と米子市の都市機能の集積を生かし、域外から人をひきつけるリゾートの「核」として、コンベンション都市づくりを目指す
森の中のリフレッシュ・タウン	大山と日本海を眺望できる、明るく開放的な立地特性と交通の利便性を生かし、ファミリーや企業人が楽しみながら保養できる都会的な心身のリフレッシュゾーンとして整備する
角笛と高原の路	スイス、オーストリアをイメージした清涼感のある高原リゾート・ゾーンとして整備する。アクティブなレクリエーションゾーンより、むしろ教養・休養・保養志向に定めるリゾートゾーンとして整備する
そよ風と高原レクリエーションの路	西日本を代表する高原地帯の特色を生かして、地場産業や1.5次産業とも結びついた、体験・交流などの高原レクリエーション・ゾーンの形成を図る
いで湯と溪流の路	湯原温泉や神庭の湯、美甘溪谷など豊かな自然の中で、人々が出会い、ふれあい、心と体がなごむ、広域観光圏のハブゾーンの形成を図る
ロマンとスポーツの路	古いたたずまいの町並みや神社仏閣に代表される歴史的ロマンとスカイスポーツに代表される現代的センスを両輪として、観光振興を図る

中国横断自動車道（岡山～米子線）開通を生かした周辺地域活性化プロジェクト実現化方策調査〔要約〕（続き）

米子市のコンベンション都市づくり

- ①地域全体の「情報発信力」の強化
②周辺リゾート地域との連携
③都市機能の強化
④新たな産業創出
⑤コンベンションから生じる波及効果
⑥コンベンション参加者の直接消費効果・生産誘発効果・それに伴う雇用効果、所得効果などの波及効果

- 米子市の目指すコンベンション都市
山・海温泉をセレクトで集め、さらに歴史・文化・食源に富む松江・出雲も近いという特性を生かし、リゾートの中のコンベンション・シティを目指す
〇想定されるテーマ・ミニエュー「健康・医療・保養・福祉」をテーマとしたコンベンション

- 活用すべき資源・特性
①交通の要衝性
②宿泊施設の（量的）充実（密生温泉）
③鳥取大学医学部を中心とする医療研究機関・医療事業所の集積
④周辺の豊かな観光・リゾート資源の集積
⑤情報ネットワーク形成進展の可能性
⑥第3次産業の集積

湯原町のケアリゾート化

- ①広域「大山・雲山周辺地域」観光圏のハブ機能強化
中国縦貫自動車道から中国横断自動車道に入る際の重要拠点として、大山・雲山地域全体への観光客の渡れを当ゾーンで受け止める仕掛けづくりが必要
②多様なリゾート機能の集積
当ゾーンの中心である湯原温泉は現在「泊まる」機能は充実しているが、他の観光要素（「食べる」「見る」「遊ぶ」「買う」機能）が不足している。総合的なリゾート機能の集積が必要
③特色あるリゾート形成
〇リラクゼーション・ヘルス・リゾート（ここから）のやすらぐ温泉リゾートを基本コンセプトとし、コアセンター、機能回復施設、カウンスリング機能、リラクゼーション施設等を中心とする諸機能の集積を図る

- コンベンション都市づくりの基本戦略
①市民のコンセンサス形成
②地域特性を生かしたコンベンションの企画と誘致
③コンベンション関連施設の整備・拡充
④中核的コンベンション・センター・ゾーンの形成等
⑤コンベンション推進機構の設立
⑥都市ぐるみの支援方針の展開
⑦コンベンションを支える都市基盤の整備

- コンベンション都市づくりのための問題点・課題
①コンベンション施設の不足
②高グレードの宿泊施設の不足
③交通基盤の未整備
④全国的な知名度の不足
⑤都市のアメニティの不足
⑥コンベンション推進体制の整備

- リラクゼーション・ヘルス・リゾート形成のために想定される中核的施設
ヘルスケア（メンタル、フジイカル）機能、観光情報拠点機能、アミューズメント機能を有する複合施設
「湯と愛プラザ」の建設
（構成施設）
・各種浴槽をもったバーデ・ゾーン
・アクア・アミューズメント・ゾーン
・リラクゼーション・ゾーン
・トレーニング・ゾーン
・レストラン
・観光情報センター
・宿泊施設

各拠点の中核施設

米子市の中核的コンベンション施設（案）

敷地面積	30,000㎡程度	建築面積	8,500㎡程度
建物床面積	19,000㎡程度	駐車場収容台数	1,000台程度
主な施設内容			
大ホール	収容人員2,250名程度		
中ホール	収容人員800名程度（分割利用可能なものとする）		
多目的ホール	〇会議・集会・展示会等多目的に使えるものとする		
会議室	〇面積900㎡程度		
その他	①50名収容 3室 ②40名収容 3室 ③30名収容 4室 ④20名収容 2室 室 総収容人員460名（適宜台併利用可能なものとする）		
建設費	レストラン、喫茶室、集客、リバーサル室等 70億円程度（但し、用地取得費は含まない）		

湯原町「湯と愛プラザ」の施設（案）

項目	規模
敷地面積	3,300㎡（1,000坪）程度を想定
駐車場	乗用車75台、バス5台収容（2,030㎡（615坪））
建物	延べ床面積 2,914㎡（883坪） 〇地下1階 150㎡（45坪） 〇1階 1,320㎡（400坪） 〇2階 660㎡（198坪） 〇3階・4階 各 392㎡（119坪） 建設費：約12億円程度（但し、用地取得費は含まない）

人を集める拠点づくり

図1 中国自動車道岡山～米子線の概要

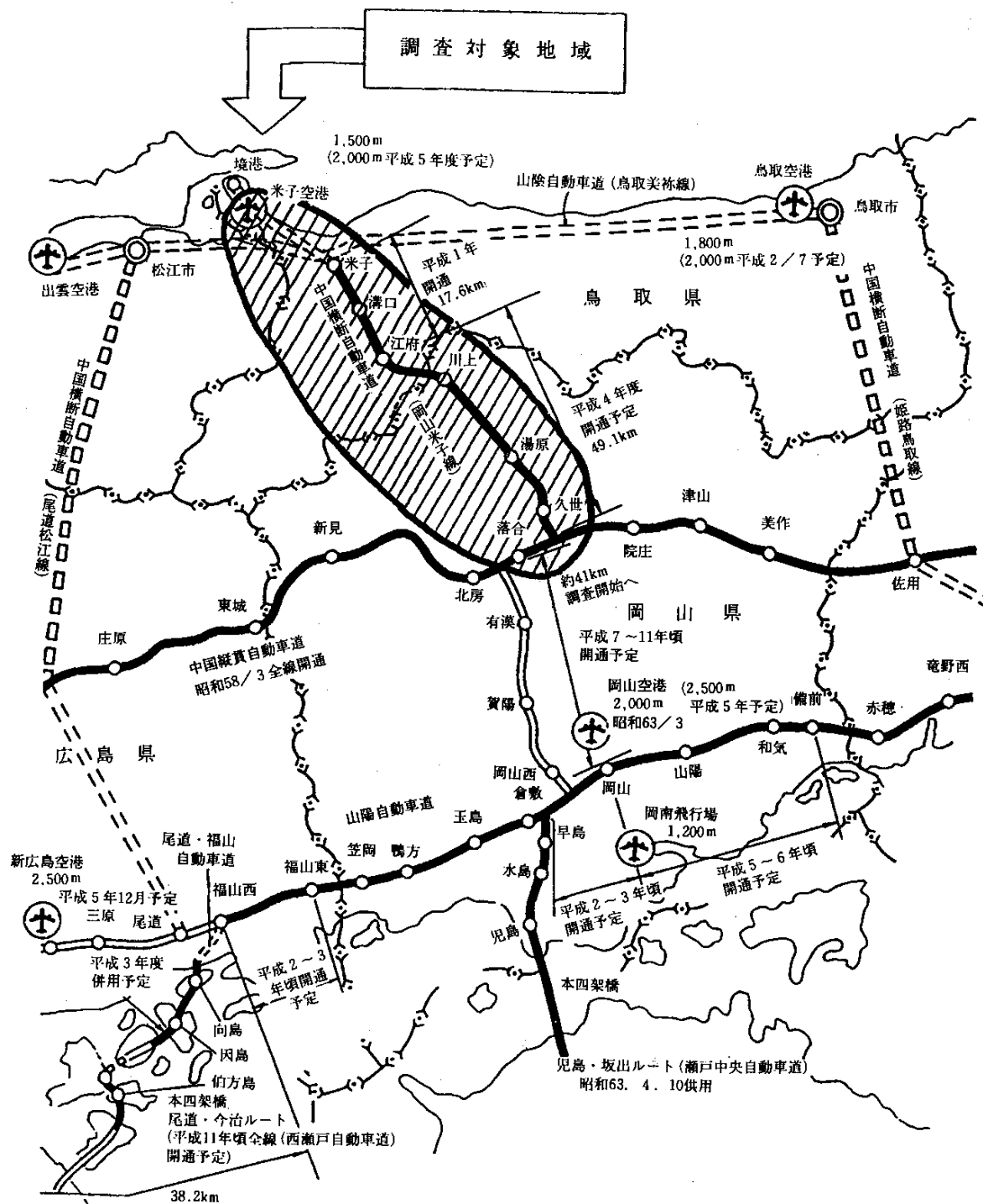


表1 中国横断自動車道開通の影響と効果

プ ラ ス 効 果		マ イ ナ ス 効 果	
調査対象地域及び周辺地域への影響・効果		調査対象地域及び周辺地域への影響	
交 通	・輸送時間の短縮・随時性の向上 ○「近くなった山陰」 ・京阪神、山陽、四国との時間短縮による勢力圏の拡大 ・安定した交通ルートの確保（輸送安定性の向上） ・高速交通バスサービス地域の拡大	・プラス効果とするための障害・課題 ・マグネット機能の欠如	・調査対象地域及び周辺地域への影響 ・同左
農 業	・輸送時間短縮による鮮度の向上 ・梱包費の節約・荷傷みの減少 ・出荷圏の拡大 ・産地化の進展と市場における価格形成力の向上 ・経営の多様化（観光農業の振興、産地宅配便など）	・生産農家の減少 ・農業従事者の高齢化 ・消費の多様化への対応（少量多品目の生産体制確立など）	・他産地との競合激化（近年、地元市場でも県外野菜のシェアが上昇している） ・競合激化による植付れ ・第2次産業、第3次産業の就業の場が増えれば、離農・兼業農家がさらに進展する可能性もある
漁 業	・輸送時間短縮による鮮度の向上 ・市場競争力の向上 ・出荷圏の拡大	・流通体制の見直し、高級魚を大量に出荷できる体制づくり ・国道431号線をはじめとしたアクセシブル道路の整備 ・水産加工業者の体質強化	
製 造 業	・輸送時間短縮 ・輸送手段の多様化 ・出張・連絡業務の効率化 ・インテンターチェンジ周辺を中心とする工場立地の増加 ・工業構造の高度化（加工組立型業種の立地促進→高度加工業種のウェイトの増大） ・工業出荷額の増加 ・取引の広域化 ・雇用機会の増加 ・1.5次産業の振興	・労働力の確保ができるか（現状でも若年層の県外流出等の構造的要因もあり、人手不足一特に若年層） ・加工組立型業種の集積が少くない（裾野が狭い。現状は素材関連・生活関連型業種のウェイトが高い）	・土壌の寒いあいによる地価の高騰 ・人手不足の深刻化 ・進出した大企業による地元中小企業からの労働力引き抜き ・労働条件の格差により地元中小企業の人手確保が困難になる。 ・外部からの企業進出による地元企業との競合激化→地域経済の凋落の可能性

表2 中国横断自動車道開通の影響と効果 (続き)

		プラス効果		マイナス効果	
建設業	一般的影響・効果	開通対象地域及び周辺地域への影響・効果		開通対象地域及び周辺地域への影響・効果	
		建設業・効果		建設業・効果	
建設業	・公共投資、民間投資の増加による需要の拡大 ・雇用機会の増加	・高速道、アクセス道路、観光・リゾート施設等の建設による需要増加		・建設費は現状でも、労働力不足が深刻（なかでも現場熟練工・技能工……「工期遅れ」などの可能性も）	
	・輸送時間の短縮により商品の仕入れや商品の配送が迅速・正確になる ・卸売商の拡大 ・営業活動の効率化 ・適正在庫の維持 ・情報収集が容易に ・流通拠点性の向上（IC周辺への回廊地・物流センターの設置など）	・卸売商の拡大（産地問題にはメリット大）		・需要が一段落した後の反動（過大な設備投資による需要の可能性がある）	
卸売業	・輸送時間の短縮により商品の仕入れや商品の配送が迅速・正確になる ・卸売業の配送機能向上による欠品率の低下 ・仕入先の多様化 ・商圏の拡大 ・地元小売業の共同化による商業の活性化 ・情報収集が容易に	・米子市小売業 ・商圏の拡大（岡山県北部からの購買力流入が期待できる一落合～岡山間の間通までは） ・リゾートの性格 ・リゾートの性格		・地元大手卸売業者の進出による統合化 ・全国的な系列化の進展がさらに進み、物流のワンポイントとしての性格が強くなる ・大型店の進出や消費者の購買力増大により、取引先の地元中小小売店の経営が悪化する。 ・異業種（運輸業、百貨業等）の卸売業分野への参入が増加する ・地元小売店の県外仕入が増加	
	・輸送時間の短縮により商品の仕入れや商品の配送が迅速・正確になる ・卸売業の配送機能向上による欠品率の低下 ・仕入先の多様化 ・商圏の拡大 ・地元小売業の共同化による商業の活性化 ・情報収集が容易に	・山陽、京阪神への購買力流出 ・購買品目（ファッション衣料、スポーツ用品等の買回り・専門品） ・顧客層（ヤング層（特に女性）目的（レジャー性）を求めて） ・県外大型小売店の進出による地元小売店・商店街への圧力 ・在来一般の国道沿いの商店の経営悪化		・山陽、京阪神への購買力流出 ・購買品目（ファッション衣料、スポーツ用品等の買回り・専門品） ・顧客層（ヤング層（特に女性）目的（レジャー性）を求めて） ・県外大型小売店の進出による地元小売店・商店街への圧力 ・在来一般の国道沿いの商店の経営悪化	
観光・リゾート関連産業	・時間距離短縮による観光客数の増加・集客の拡大 ・高速バス・貸切バスの増加 ・観光流動の変化（観光ルートの広域化・ネットワーク化等） ・観光・リゾート関連産業の成長 ・新たな観光・リゾート需要の開拓 ・観光・リゾート関連産業の成長による雇用の拡大 ・観光消費額の増加	・観光勢力圏の拡大（山陽、京阪神、四国、九州からの入り込み増加） ・既存観光地（施設）の観光客増加 ・新たな観光・リゾート需要の開拓（各市町村が取り組んでいるリゾート開発など） ・山陽、京阪神（岡山など）との連携強化 ・広域観光ルートの形成（現在は岡山～大山～岡山温泉が最も一般的で、道路事情からもこれが限界。横断自動車道開通により観光ルートが拡大） ・リゾート開発により「カネの落ちる」仕掛けづくりができる ・観光産業の促進		・「大山」ブランドの浸透（地域イメージの確立） ・「観光」だけでなく「食べ」「買物をする」「遊ぶ」「泊まる」複合機能をもちたリゾート・観光への転換 ・山陽、京阪神との連携強化による広域観光ルートの確立 ・リゾートなどの整合性	
	・時間距離短縮による観光客数の増加・集客の拡大 ・高速バス・貸切バスの増加 ・観光流動の変化（観光ルートの広域化・ネットワーク化等） ・観光・リゾート関連産業の成長 ・新たな観光・リゾート需要の開拓 ・観光・リゾート関連産業の成長による雇用の拡大 ・観光消費額の増加	・山陽、京阪神への購買力流出 ・購買品目（ファッション衣料、スポーツ用品等の買回り・専門品） ・顧客層（ヤング層（特に女性）目的（レジャー性）を求めて） ・県外大型小売店の進出による地元小売店・商店街への圧力 ・在来一般の国道沿いの商店の経営悪化		・山陽、京阪神への購買力流出 ・購買品目（ファッション衣料、スポーツ用品等の買回り・専門品） ・顧客層（ヤング層（特に女性）目的（レジャー性）を求めて） ・県外大型小売店の進出による地元小売店・商店街への圧力 ・在来一般の国道沿いの商店の経営悪化	

図2 コンベンション都市づくりの基本戦略

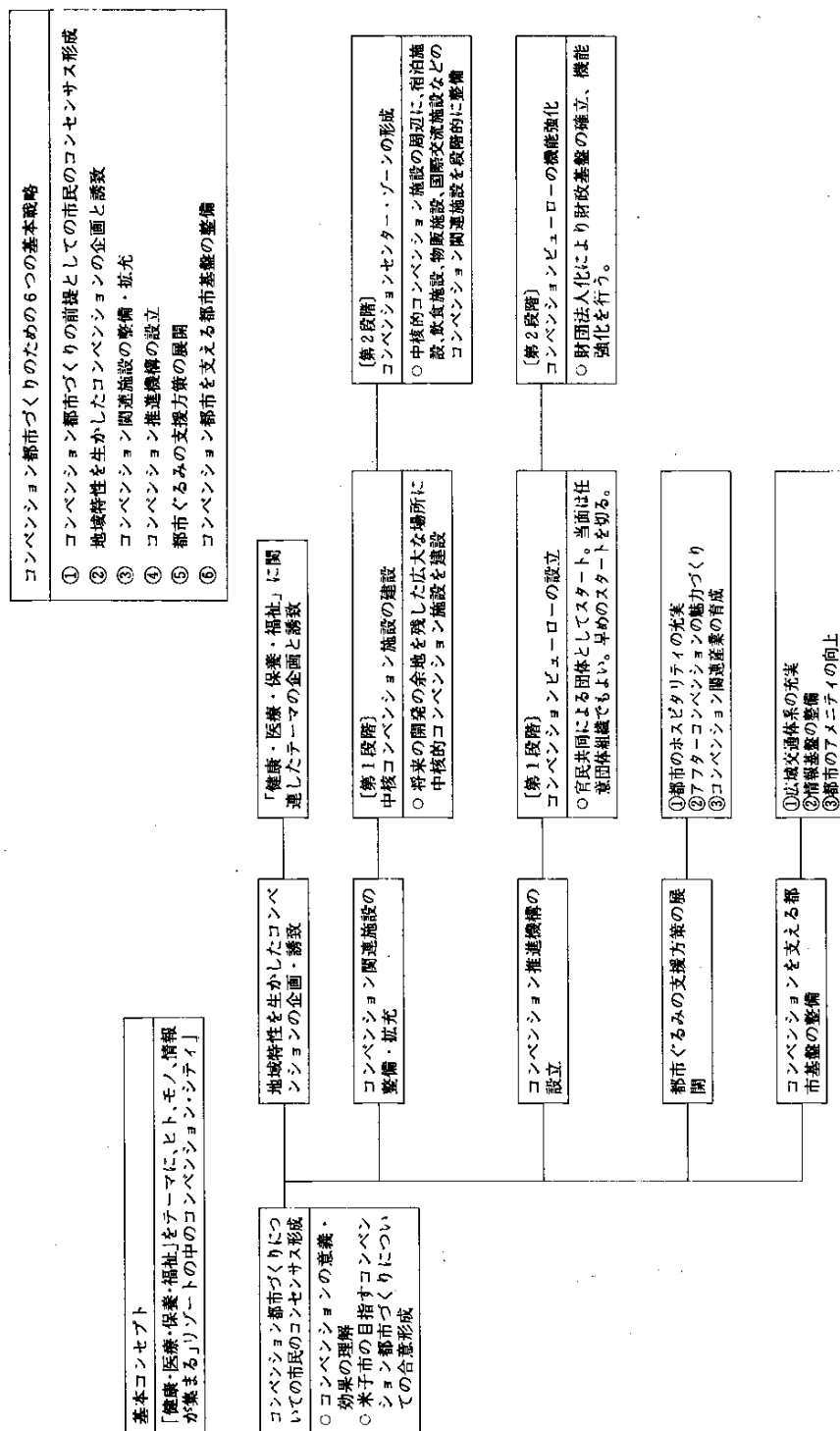
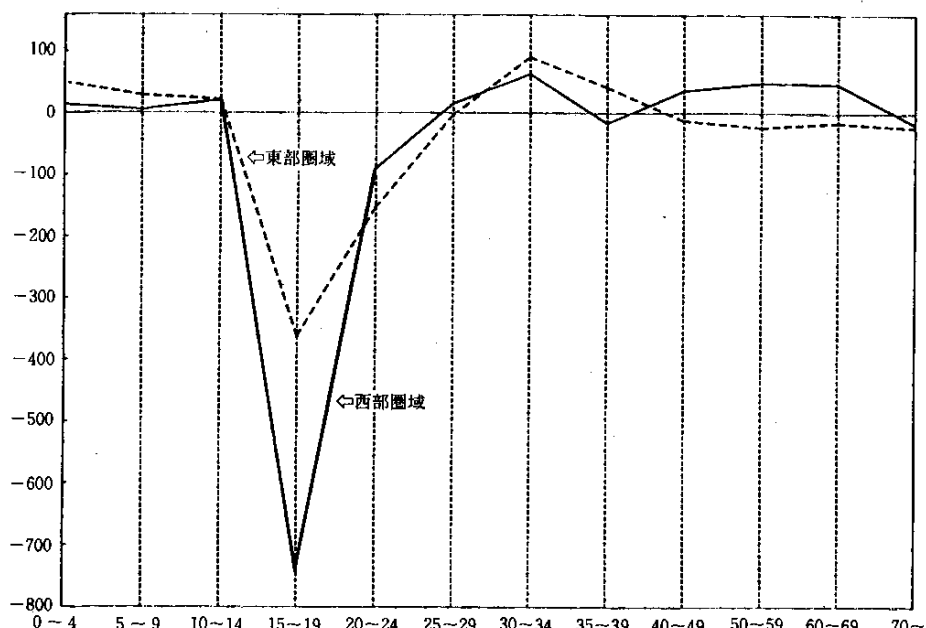


図3 鳥取県西部圏域・東部圏域年代別県外転出・転入状況（平成元年）（単位：人）

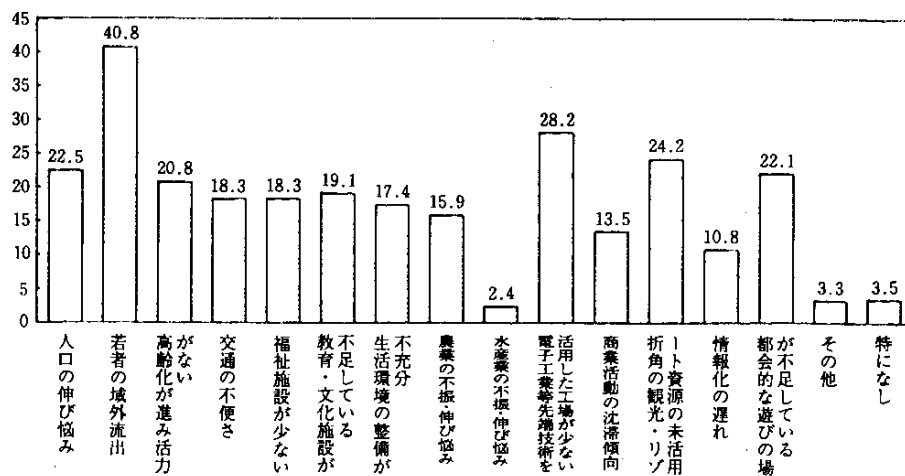


注）県外転入者数から県外転出者数を差し引いたネットの転入（出）超過数

注）プラスの数字は転入超過、マイナスの数字は転出超過

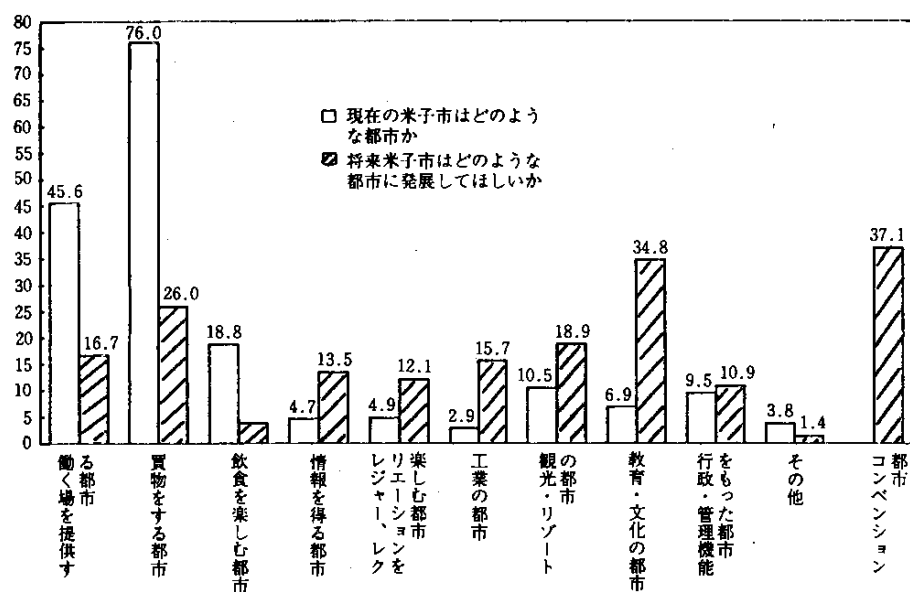
資料）鳥取県統計課「鳥取県の人口」表14、15も同じ。

図4 鳥取県西部圏域の問題点（3項目まで選択、単位：%）



出所）鳥取県西部広域行政管理組合「鳥取県西部圏域市町村住民意識アンケート調査」（調査時期：平成2年9月、当研究所が調査機関としてアンケートの企画・集計・分析を実施した）

図5 米子市の現在の姿と将来の発展方向 (それぞれ2項目まで選択、単位：%)



出所) 図4に同じ

注) 「コンベンション都市」は「現在米子市はどのような都市か」の選択肢に入れていない